

GAP（ESDのためのグローバル・アクション・プログラム）後の ポジションペーパー

期間：2020年～2030年

1. 経緯と今後の予定

- 第204回ユネスコ執行委員会（2018年4月）にて「2019年以降のESD（持続可能な開発のための教育）」の提案を決議。
- 第3回GAPキーパートナー会合（4月25日～27日）、ESDの将来に関する加盟国協議（7月9日～10日）等を踏まえ、最終版は承認プロセスのためにユネスコ執行委員会、総会及び国連総会に付議、最終的にGAPの後継を示す文書となる。

2. GAP中間評価

- ネットワークメカニズム
 - 資金調達と共同プロジェクトの開発が不十分。
 - 優先分野ごとのネットワーキングだけでなく、実際の事業活動や分野横断的な取組が必要。
- 加盟国政府
 - 加盟国が実施したイニシアチブやリーダーシップの可視化や明文化が不十分。
 - GAP後は政府によるリーダーシップについてモニタリング及び報告が必要。

3. GAP後で重視されるべき改善点

- 行動の変革：いかに学習者に持続性のための行動の変革をもたらすかがESDの主な優先事項。行動の変革をもたらすのに公教育だけでは不十分で、ノンフォーマル教育も必要。
- 構造的変更：消費者社会に新たな選択肢を提供するために、ESDによる価値観の向上を優先しなければならない。また、学習者に最近の経済構造の知識や政治的関与に必要なスキルを提供しなければならない。
- 科学技術の進歩した未来：次世代は、課題解決のための技術の活用、新技術により生じる新しい課題への警戒、技術の課題解決力に対する批判的思考力を備えることが必要。

4. 実施枠組

- **SDGs支援**：新しいGAP後プログラムを「持続可能な開発目標のための教育（ESDGsプログラム）」と名付ける。全ESD活動はSDGs達成に貢献する。ESDは教育に係るSDG4のターゲット4.7の重要項目であり、他の全てのSDGs達成のための鍵となる。
- **GAP構造**：GAP後では主要構造は維持し、これまでの実施状況からの教訓を踏まえて一部調整する。
 - **5つのパートナーネットワーク**：ネットワーク間の協力を強化する。また、各パートナーは他パートナーを含めた活動を行う。一つのネットワークの中で、他パートナーと横断的に活動する。
 - **ユネスコ・日本ESD賞**：GAP後の重要なアドボカシー・ツールとしてさらに支援される価値有り。
- **加盟国**：2030年までにSDGsで設定されたアジェンダを達成するために、5つ全ての活動分野でさらなる努力が必要。
 - **分野1（政策）**：教育や持続可能な開発に関連した国際及び国内政策の中にESDが統合されるべき。
 - **分野2（教育訓練環境）**：ホールスクール（機関包括型）アプローチの推進の必要性、共に活動するための学校及びコミュニティの重要性・必要性。公教育・ノンフォーマル教育・インフォーマル教育の環境の相互作用及び協力の強化のための戦略的政策および方策。
 - **分野3（教員）**：教員が学習者に権限を与える機会を増やすべき。公教育及びノンフォーマル教育の学習者のための能力開発プログラムにおいて、どのように行動の変革が起こるかを理解され、反映されるべき。教員は学習のファシリテーターであるべき。
 - **分野4（若者）**：若者は持続可能性の問題に取り組む鍵となるアクターである。
 - **分野5（コミュニティ）**：分野5は5つの活動分野の一つとしてだけでなく、節となるより重要な分野である。

5. ユネスコに求められる取組の提言案

- 教育を通じたSDGs達成のための国家規模のイニシアチブを支援するプログラムの立ち上げ。
- グローバルレベルのキーパートナー間のネットワーキングの継続支援。
- エビデンスベースでのGAP後の実施。
- 広報、アドボカシーに対する努力。ESD賞が継続されればユネスコ広報・アドボカシー戦略において不可欠な役割を担う。
- ESDコミュニティだけでなく、より広範な持続可能な開発及びSDGsに関するコミュニティとのさらなるパートナーシップ開発。SDGsの運営に関わるUN機関、多国間金融機関、民間セクター等との協力や資金調達の仕組み作りが必要。
- 三種類のモニタリング及び評価
 - 5活動分野における活動の規模拡大。
 - プログラムやプロジェクトの成果や効果の広がり。
 - 定期的なテーマ別調査。